

「科学者京都会議」報告会へのよびかけ

現在アメリカ原子力潜水艦の日本寄港を含む一連の問題は、日本とアジアの平和と安全にとって重大かつ緊急な意味を帯びつつあります。これに対し科学者を含め多くの国民は、平和を求めて行動に立ち上りつつあります。オ二次大戦中、科学と戦争と反動の道具として用いられた苦い経験をもつ私達科学者は、今再び重大な時期にあつて決して座視することは許されません。科学の成果を人類の幸福と世界の平和のためにという「科学者の社会的責任」を遂求することによつてのみ、私達は真にその任務を果し得るものと考えます。そして又それは、国民大衆との共同の努力なしでは達成され得ません。

世界の科学者のニライに意志は十回にわたるパケオツシ会議に結果され、又日本では湯川、朝永、坂田三氏の提唱による「科学者京都会議」がすでに二回開かれ、平和の創造という問題について重要な提案を行つています。私達はこれらの努力を強く支持し、更に広範な確固とした運動に発展さすべきであると考えます。

その意味で、去る五月に開かれたオ二回京都会議の報告会をもち、科学者運動について熱心な討論を行いたいと思ひます。是非御参加下さいますようお願い致します。

日時 六月十九日(水) 午後三時より
場所 物理才三講義室
報告者 湯川秀樹氏
高木修二氏

主催 現代科学者集団(代表 井上 健)
素粒子論グループ KJR